

3 指導の実際

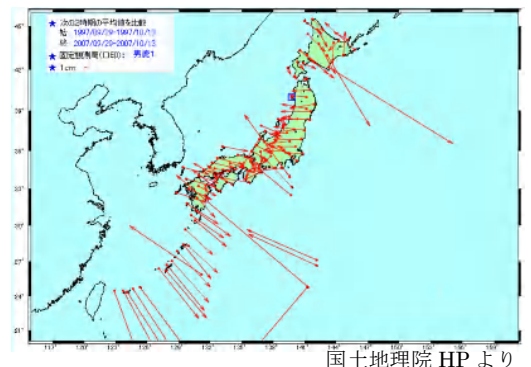
	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
(導入)	○本時の目標をつかむ。	○能登半島地震を振り返る。	○能登半島地震の震源地、マグニチュード、奥能登各地の震度を確認する。	資料から日本列島が受けている力を読みとり、それを文章化したり表現したりすることができる。 【観察・実験の技能・表現】 地殻変動には、地震や火山活動を伴う急激な変動と長い年月をかけて進行するゆっくりとした変動があり、能登半島地震は地殻変動の一例であることを理解できる。 【知識・理解】
[展開1]	能登半島地震では、輪島のゆれ方やゆれた方向にどのような特徴があったらう？			
[展開2]	能登半島地震によって、輪島はどの方向に何cmずれたのらう？			
[まとめ]	現在の日本列島は、どの方向に力を受けているのらう？			
	地殻変動には、2つのタイプがある。 ①地震や火山活動によって、急激に生じるタイプ。 ②プレート運動やマグマ活動によって、ゆっくり進行するタイプ。			

C-1 指導案	C-2 ワークシート	C-3 資料	C-4 評価用紙
---------	------------	--------	----------

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 学習内容と身近な自然現象との関連づけによる生徒の理解の深まり
「地殻変動」という学習内容と、能登半島地震とを関連づけることによって、実際に自分の住んでいる場所の地殻が動いたという感覚が養われ、理解を深めることができた。また、そこから日本列島全体の地殻変動の理解へつなげることができた。
- ② Webページを積極的に活用することによる教育効果
GPSの観測結果や地殻変動アニメーション等を活用することで、教科書だけでは扱いきれない題材を教材化することができた。また、地殻変動アニメーションは生徒にとって印象に残ったようであり、地殻変動の動的な感覚を養うには、有効な教材であることがわかった。
- ③ 「学び合い」による読解力育成の効果
地殻変動ベクトル図から、日本列島が受けている応力を読み取ることは、生徒にとってやや難しい課題であった。しかしながら、少し時間をかけて班活動で議論をすることで、生徒の考えが少しずつ深まり、多くの生徒が自分なりのことばでそれを表現することができた。



(2) 課題

- ① 読解力の向上
本事例だけで、生徒が資料から必要な情報を読み取る力を高めたということではできない。読解力を真に向上させるために、今後も、今回のような教材開発・授業実践を繰り返し行いたい。
- ② 地殻変動アニメーションによる生徒の誤解
地殻変動アニメーションの有効性は大きい反面、大きく誇張されていることを理解できずに、アニメーション通りにリアルな変化をしていると誤解をした生徒が、多数いたようである。今後は、生徒がこのような誤解をしないように、十分な配慮が必要である。

D-1 評価用紙の集計

5 その他 参考資料 国土地理院ホームページ (<http://www.gsi.go.jp/>)

E-1 授業で活用したWebページ
